

熊本県

てんめい 天明環境保全隊

守り伝えよう環境と文化～地域、学校、福祉の連携～



れんげ祭りでの交流



銭じゃこ太鼓・花棒踊りの披露



水源地の下草刈り 天明中

取組概要

- H19年に31集落の全住民、各種団体(16)により設立。農道・水路・農地、海浜の保全活動、生ゴミ等の堆肥づくり、毎年160haのレンゲの作付、水源涵養林の育成、漁協と連携した河口の野焼き等を実施。
- 天明文化保存協議会を立ち上げ、雨乞い太鼓の引き廻し・花棒踊り等を伝承。
- 小中学校(7校)で地域の歴史・風土の出前講座、田んぼの学校を開催。

活動成果

- 天明のNPO法人から呼びかけた緑川の清掃は、今では流域住民2万人が参加する一大イベントに発展。
- 様々な活動を通じ、地域ネットワークも構築され、団体・集落の相互理解が進んだ。耕作放棄地もなく、農漁業後継者も多く育っている。
- 校区単位のワークショップを年2回開催することで、活動範囲が拡大し、新たな活動にも挑戦可能となっている。

天明環境保全隊

熊本県熊本市南区奥古閑町1863-5

Tel :096-223-2226 Fax :096-223-5606

郷土の家庭料理 ひまわり亭

“食”でまちづくり・人づくり・元気づくり!!



三部研修の様子:ひまわり亭にて



作成したレシピ集



令和2年熊本豪雨災害
キッチンカーによる炊き出し

取組概要

- H2年に地域のボランティアグループとして、独居老人への宅配弁当・見守り、地域イベントへの参加等の地域主婦の“食”をコンテンツとした活動からスタート。
- H10年に築120年の古民家を移築・改修し、郷土の家庭料理でもてなす「農家レストランひまわり亭を開始。
- 幼稚園給食、一般弁当、総菜の製造・販売にも取り組むほか。郷土料理伝承塾の主宰、講演+食事+調理の三部研修実、食育、農泊、震災復興支援等、幅広く活動し、地域活性化に貢献している。

活動成果

- レストラン部門、お弁当・総菜部門の売上げや体験研修参加者数は、年々増加してきている。
- 農山漁村女性の力を結集したレシピを全5冊作成するとともに、野菜ソムリエ上級プロを招き開講した子供食育講座では、次世代を担う20名のキッズ野菜ソムリエが誕生した。
- 熊本地震、令和2年7月豪雨では、自ら被災しながらも被災者へ連続120日間、13,000食を配食し、その後も仮設住宅へ支援を継続して行っており、被災地域の方から、多くの感謝の言葉が寄せられている。

郷土の家庭料理 ひまわり亭

<https://himawari-tei.com/>

熊本県人吉市矢黒町字西の園1880-2番地 Tel : 0966-22-1044 Fax : 0966-24-8610

有限会社むらた活魚

「身欠き加工フグ」の開発と新規市場開拓



陸上養殖圃場の「吉宝フグ」



個人消費者向けの鍋商材



自家製モイストペレット

取組概要

- 身欠いたフグを更に加工し、プロ向き商材やエンドユーザー商品として開発。
- 自動化により温度・凍結等全工程を記録に残しトレーサビリティ管理を体系化。プロトン凍結機の導入により高水準・品質の加工品開発や安心安全な衛生管理基準の向上に取り組む。
- 熊本の養殖業者は最盛期の60%程度と衰退してきている中で、本事業によって自社のみならず、地域の養殖業界の底上げや活性化を目指す。

活動成果

- 「身欠き加工フグ」開発の事業計画により、6次産業化総合化事業計画認定事業者となるとともに、県内ホテルでのブライダルやレストランレギュラーメニューに採用される。
県内ホテルでの採用により熊本食材の魅力発信にも寄与。
- 本事業により労働の多様化が図れ、地元雇用の拡大が見込めるとともに、地元養殖業界の発達、活性化にも寄与。

有限会社むらた活魚

熊本県上天草市大矢野町維和420番地の3 Tel : 0964-58-0527 Fax : 0964-58-0842

草原再生オペレーター組合

阿蘇の草原をずっと未来へ



採草作業風景



組合員と作業機械



保管された野草ロール

取組概要

- 平成19年に、当時20～30代だった若手農家を構成員として組合を立ち上げる。農閑期や農作業の隙間時間を利用して未利用野草を収穫し、飼料や堆肥の資材として販売。
- 自治体や牧野組合からの情報・要望により未利用草地を選定。大型トラクターで採草後、ロールにし、飼料用はラッピングして保管。
- 採草したロールは、刈取り時期や状態に応じて飼料や堆肥・マルチ用として阿蘇地域内外に販売。

活動成果

- 採草面積は年々増加し、H24年の18.9haからR1年には142haとなっており、持続的な草原保全に貢献。
- 販売売上は、H24年261万円、R1年756万円となっている。地元若手農家の雇用創出にも繋がっており、今後は組織の基盤強化を図るために法人化を検討している。
- H28年1月に、野草から作物の病害虫を予防する善玉菌が多量に発見され、その報道が野草販売を後押し。

あそ 阿蘇地域林業担い手対策協議会

阿蘇地域の林業担い手対策の取り組み



「あその山モン伐木チャンピオンシップ」：枝払競技



地元高校への就業ガイダンス

他地域の林業関係者との交流会

取組概要

- 阿蘇地域の市町村、関係団体によりH28年に設立。チェーンソーによる枝払い等の競技を通じて林業の魅力を発信するイベント「あその山モン伐木チャンピオンシップ」を毎年開催。
- 地元高校生に林業関係者が講義する就業促進ガイダンスや就業希望者を3日間程度受け入れるトライアル雇用を実施。
- 林業の魅力ややりがいを発信する冊子やwebを活用した情報発信を強化。

活動成果

- 「あその山モン伐木チャンピオンシップ」は昨年度400人以上を集め、多くの人に林業の魅力をPR。
- 就業促進ガイダンスやトライアル雇用の取り組みにより、平成30度は2名が就業。
- 様々な活動で、阿蘇地域の林業事業者も活気づき、管内の認定事業者が設立時の8社から11社に増加した。

NPO 法人あじ菜工房 さい

菊芋の6次産業化で農福連携



作業受託によるタマネギ収穫



菊芋定植作業



菊芋と乾燥粉末の製品

取組概要

- 当法人は就労継続支援A型事業所を運営。農地を借りて障害者と野菜の生産・販売や高齢の農家から委託を受け、草取りや作物の植え付け・収穫等の農作業の手伝を実施。
- 菊芋を乾燥粉末に加工し販売。原料の菊芋は通常の菊芋よりもイヌリン含有量が多い紫菊芋を自社農園で有機栽培し、使用。また農作業を受託している農家にも菊芋を栽培してもらい、収穫物を原料として購入。

活動成果

- 作業受委託(R元年度は100a)の取り組みにより、高齢農家の農作業を軽減することで農地の維持に貢献。また、R元年度はネット販売を開始。前年の倍近い売上を伸ばした。
- 障害者の就業機会が乏しい地域で雇用機会の確保に貢献。また、一般就労しても職場で働き続けることが出来るよう体力面・精神面の向上を目指した就労支援を実施。賃金も売上の中で賄えており、厚労省の基準を満たす。

まき
真木地区協議会

高齢者が安心して暮らせる農村集落の創生



取組概要

- 地区住民と行政等で組織。苗作り・田植え・稲刈り体験等の交流活動を実施。地域住民による遊休農地の解消。
- 地域営農法人「もやいネット真城」を核とし、冬期湛水による地下水涵養事業等の農地の維持活動に努める。
- 高齢者の健康増進に向け「元気塾・ふれあいサロン」を女性有志で開催。

活動成果

- 平成27年度から始めた事業を通して、区民が地域の良さを再確認。各事業の展開の中で区民の連携が強固になった。
- 地域の豊かな緑と豊富な地下水によって、地域とそこに暮らす住民は育まれているという自覚が増した。
- 元気塾・ふれあいサロンの開催による交流事業により、高齢者の健康増進等に貢献している。

真木地区協議会

熊本県菊池郡大津町真木412-1

Tel :096-293-4558

Fax : 096-285-1672

ビジネス部門

おぐにまち

小国町森林組合

小国杉と地域がもたらすやる気、元気、勇気



木を育て、森を守る、保育林産班

映画製作「ウツジョイオグニ」
パッケージとワンシーン

取組概要

- 昭和26年に設立。現在713名の組合員が在籍しており、古くから受け継がれている「小国杉」の継承に尽力している。
- 平成22年より小国杉エコツアーを開催し、平成29年には林業体験インターンシップの受入を開始。
- 林業担い手の魅力、仕事の魅力などを発信できるような映画「ウツジョイオグニ」を製作し、町民や中・高校生への上映、HP、Facebookでの掲載、YouTubeで公開した。

活動成果

- 昨年SNSで公開した動画の再生回数が2,500回となり、今年度は更に倍近くの再生回数を見込んでいる。
- 林業担い手の魅力、仕事の魅力を発信できる映画を製作することで、都会の若者へ「林業の魅力ややりがい」を伝え、担い手確保に繋がる波及効果を期待している。
- 地元関係者をキャストに且つ地域の観光地も入れて小国杉と小国町PRできるような映画となっており、小国町の活性化にも寄与することを期待している。

小国町森林組合

熊本県阿蘇郡小国町宮原1802番地1

<http://ogunisugi.com/>

Tel : 0967-46-2411 Fax : 0967-46-5474

一般社団法人 sol 森のようちえんおてんとさん

フルキハアタラシキ～人が繋がりに育つ場創り



02ファームにて田植え



地域の方の梅ちぎりお手伝い



卒園式の集合写真

取組概要

- 自主保育で開始した森のようちえんをR1年に法人化。農家の子供さんたちを中心に預かり保育としてリスタートした。
- インクルーシブ教育を取り入れ、通所事業所の児童と共に交流事業として、毎日山や川、畑等で身体を使ってたくさん遊び、学びあっている。
- 南阿蘇村の02ファーム・たのくろ農園さんと一緒に野菜や米を作り、土に触れ、作物の成長を一緒に見つめている。

活動成果

- 野外教育の中で多くの農村の人々と直接交流することで、楽しく農業を知り、農家の人々の素晴らしさを知り、農村で生きていく楽しさを実感している。
- インクルーシブ教育等の方針に惹かれ、児童数が10名から18名に増加した。
- 農村や高齢者に伝わっている遊び唄を子供たちと行き、遊びの中で身に着けていた社会性や我慢・努力・勇気を学んでいる。また、高齢者との交流、生きがいにも繋がっている。

そよう 蘇陽農場

女性が創る農福連携！多様な雇用で笑顔一杯



蘇陽農場は南阿蘇山麓の山里にあります

自給飼料用マリーゴールド

取組概要

- H28年設立。南阿蘇山麓の山里にあり、地域ブランドたまごを地元をはじめ大消費地福岡へDay0直送で販売。
- 『農×福×女性連携＝多様な雇用＝有機堆肥×地域自給飼料栽培＝持続可能な農山漁村(むら)づくり』をスローガンに、「女性の活躍推進」、「障がい者雇用」、「『循環型社会づくり』～有機堆肥製造と地域自給飼料栽培」に取り組んでいる。

活動成果

- 勤続20年の女性が農場長として活躍。後輩女性もジョブコーチ、障がい者就労支援責任者として活躍中
- 現在7名の障がい者を雇用。障がい者向けに作業手引書第2版を作成。地域関係者向けに第1回農福推進勉強会を開催。
- 自社鶏糞の有機堆肥化に取り組中。遊休農地を活用し、自給飼料マリーゴールドの栽培開始。試験給餌実施。

やま と
株式会社 山都でしか

山都でしかできないワクワクを！



親子で楽しむ食育
調理体験



親子で楽しむ食育
稲刈り風景



山都でしかレストランの様子
野外レストラン

取組概要

- 地域の若手農家、飲食店オーナー等をメンバーにH29年設立。山都町でしかできないこと、山都町でしか出せない価値を形にする会社。
- 毎年、ホテル日航熊本と連携し、「親子で楽しむ食育」を開催し、調理体験や稲刈りを体験を実施している。
- 農泊事業にも取り組み、モニターツアーの受け入れや野外レストラン「山都でしかレストラン」の試験運用を開始している。

活動成果

- 「親子で楽しむ食育」では、毎年参加してくれる方もあり、新たな体験の提供等にとっても感動して頂き、山都のファンになってくれる方も増えている。
- コロナによる来客減で被害を受けている農業者や山都町内の飲食店を支援するために実施した「山都町応援クラウドファンディング」では、目標額の3倍を超える支援を集めることができ、SNSや新聞、TVに取り上げて頂いた応援キャンペーンにおいても多くの支援を集めることができた。

たらぎビジネスデザイン協議会

子どもをまんやかに地域をつなぐ



商店街の方々との交流



断熱ワークショップ



生産者との交流・収穫・調理体験

取組概要

- 町が継続・活性化していくための「新しいまちづくり」の形を見つけたいとH30年に協議会を設立。働く子育て世代の女性中心の事業で、リアルなニーズをつかみながら進めている。
- 初年度の託児トライアルから、R1年は「たらぎのあそびば」プロジェクトに発展。ハロウィンパレード等のイベントを4か月のなかで10回開催した。
- 講師を招き、空き家の下調べ、利活用の可能性を検討し、リノベーション実践のワークショップを開催。

活動成果

- 地域の農産物を活かしたワークショップや商店街等を利用したイベントで、地元商店街の方々と参加親子が繋がり、住民の交流促進になった。
- 屋内・屋外のイベントで託児を行い、子育て世代の参加ハードルを下げる事ができた。また、子育て世代のニーズを拾い上げることが出来た。
- Facebookや新聞等の取材により認知度も高まり、町内外問わず協力者も増え、コミュニティーの輪が広がっている。

コミュニティ部門

やま え む ら

山江村地域活性化協議会

学校給食地産地消推進で地域農業振興



農地の作付調査

真空調理器による通年供給体制の構築

学校給食関係者会議

取組概要

- 農林業の推進にあたり、村内の各団体の意見・意思を的確に施策に反映させるため、H27年に設立。
- 農地情報を図面化し、学校給食に納品される野菜等の作付け圃場を可視化し、食材の納品体制を構築。
学校給食への注文及び作付依頼の窓口となるテレワークセンターを設置し、情報を集約化。
- 農地及び作付け状況のわかるデータを蓄積し、食育の教材として活用。

活動成果

- 学校給食への村内農産物供給が拡大。重量ベースで約5割程度を占める。需要と供給側の相互情報共有により、新しい農産物の生産が始まり、参加農家も年々増加。
- テレワークセンターを中心とした受注管理により、需要と供給のミスマッチが解消しつつあり、作付及び使用品目の情報が集約化され、今後一層安定した農作物の提供が可能になる。

とうようかい
社会福祉法人東陽会 りゅうきんか

「アグリハ」～農業×リハビリの創作力！～



開花後、筆を使って人工授粉を体験

「ハウスへの通勤」で歩行訓練

イチゴジャム作りにも挑戦

取組概要

- 入・通所者は元農業従事者が多く「自身の経験や知識が生かせる農業と福祉、リハビリを連携させ、健康増進・生きがいの造成・将来的な高齢者の就労につながるような取組としてスタート。
- リハビリの検証・評価をするために、利用者10名を対象に3グループに分け、評価を作業療法士が実施。
- イチゴの苗160株をハウス内でプランター栽培。人工交配や水やり、草取り等日々の栽培管理を利用者とともに実施。

活動成果

- 身体機能、認知機能面では各検査でわずかに向上が見られた。取組に対するアンケートでは満足度が高くなっており、かかわる時間が長いほど栽培に対する意欲が高まっている発言が見られた。
- 利用者がイチゴの様子を気にかけて、積極的に管理に携わってくれる意気込みが見えた。
- 担当以外の職員も積極的に参加し、イチゴ栽培によって活発で円滑なコミュニケーションが取れ、職場環境にも好影響を与えた。

個人部門

みやざき くみこ
宮崎 久美子氏

菊池川流域の恵みの食で人と地域の元気創造



干し柿作り体験イベント

新たな農家おばあちゃんカフェ
「あいいい」のオープン
チラシ

野菜料理のバイキング店「view café 935」



地元野菜をふんだんに使った料理

取組概要

- 38年間学校給食と病院給食に携わった経験を活かし、地域食材を使った季節の野菜料理のバイキング店をオープン。
- 保育園の若い先生方の視察体験等を通じて、次世代へ「食の大切さ」と「郷土料理」を伝えている。
- 「菊池川流域の恵み」体験協議会のおばあちゃんカフェ部会に参加し、自分の店を参考とした「おばあちゃんカフェ」を増やす活動や「干し柿作り体験イベント」の実施にも取り組んでいる。

活動成果

- R2年9月で2年になり、来店して頂いた方は延べ1,304名と大変多くの方に来店いただいている。
- 営業日には、地元農家の女性達がコックやウエイトレスとして働き、女性の活躍する場となっているほか、地域外から訪れる方々との交流場となっている。
- 「菊池川流域の恵み」体験協議会のおばあちゃんカフェ部会の活動により、R3元年度に菊池川流域エリアで新たなおばあちゃんカフェが1軒誕生した。

宮崎久美子氏

<https://www.facebook.com/viewcafe935/>

熊本県山鹿市菊鹿町上永野1304-2

Tel : 0968-48-3421 Fax : 0968-48-3421

個人部門

なかやま ちはる
中山 千春氏

フルキハアタラシキ～子供達へ繋ぐ農村の宝



わらべ唄の採取りをし・伝え、農村の子育て文化の継承

取組概要

- 高齢者と伝統料理教室やお手玉で世代間交流を図る。また、子育ての大切な智慧として伝承されてきたわらべ唄を次の世代に残していくため、高齢者から聴き取り・採取りを行う。
- 高齢者から聞き取り・採取りしたわらべ唄をCD化し。母たちへ提供。
- 子育て支援で、昔遊び・わらべ唄を活用し、伝える。また、この5年は依頼を受け、九州内の保育士や特別支援の方への研修も行っている。

活動成果

- わらべ唄の採種や世代間交流では、高齢者から母親たちへ直接子育ての知恵を伝えることもあり、かかわる高齢者の回想法や生きがいにもつながっている。
- 子育て支援で、当初は「昔遊びなんて」と期待無く参加する親子が多かったが、どれだけ子育てに役に立つかの必要性を理解してもらい、最近では研修依頼も多くなっている。
- 高齢者の協力者も徐々に増え、子育て支援や伝統料理教室で世代間交流をしたり、互いに喜び合う時間が増えた。

中山千春氏

熊本県阿蘇郡高森町上色見1388-1

Tel : 090-2960-0418 Fax : 0967-62-2228

個人部門

ひろばやし かのん
廣林 花音氏

休学せずに農村留学！？



田植え機ではできない所を手植える



稲の種を熱消毒する様子



大学研究室の企画
オンラインに農家の
娘さんと参加



大学の研究室に発信
していた南阿蘇だより

取組概要

- 九州旅行中にコロナの緊急事態宣言を受け関東の大学に帰れなくなり、大学の先輩で南阿蘇村の女性農家宅にたどり着く。オンライン授業開始をきっかけに、農村で農業×学業が始まった。
- 南阿蘇村と大学を繋げるために、所属する研究室で生活や出来事をまとめた「南阿蘇だより」を発信。
- オンライン授業が普及する中で、休学せずに農村留学をするという学びの形が選択肢になるように、まずは自校の学生を呼び込んでいくことを目指す。

活動成果

- オンライン授業によって、休学しなくても好きな場所でやりたいことを全てでき、今までで一番多く単位を取得できた。
- 南阿蘇村の人々に関わる中で、都市圏で勉強しているだけでは体感できない農村の跡継ぎや少子化の問題等をリアルに体感することができている。
- 農業・農村・田舎暮らし・子育てなどに興味がある学生は多く、所属する研究室で南阿蘇での生活等を発信していったことで、学生の1名が南阿蘇に今後滞在することが決まった。

廣林花音 氏

熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併1283-3

Tel : - Fax : 0967-62-3730